

巻 頭 言



川崎医療福祉学会 会長
川崎医療福祉大学 学長

江 草 安 彦

川崎医療福祉学会誌第11巻第1号の刊行にあたり、ご挨拶を申し上げます。

川崎医療福祉大学が「人類への奉仕」をめざし、医療福祉・ヘルスサイエンスの分野での教育・研究を進めるために、わが国最初の総合大学として発足して、すでに10年を経過しました。

開学間もなく、川崎医療福祉学会を設立し、会員の研究の発表のために、学会誌を刊行を開始しましたが、10年を経過し、年々掲載される論文の内容は充実し、関係者から注目されるまでになりました。

また、欧文の *Kawasaki Journal of Medical Welfare* も本学会誌と平行して刊行を続けてまいりました。御同慶に堪えないところであります。

本学が、医療福祉・ヘルスサイエンスの分野での教育・研究という時代の要請に応えるために、本学の教授陣は、自然科学、社会科学、人文科学のあらゆる分野にまたがって多彩な研究を続けています。したがって、教育・研究においても、相互に影響し合って創造的な展開をみせています。本学会誌の掲載論文にも、こうした傾向が如実に現れています。まことに慶ばしい限りです。

世界の歴史を回顧すると、発展した国家、民族ではすべてしっかりとした教育・研究が、それぞれ独自に体系化され、整備されていたといわれています。

21世紀のわが国のめざすところは、社会経済的には成熟した社会であり、文化的であり、一人ひとりの人間の尊厳がしっかりとした社会であります。こうしたわが国の未来像を思うとき、医療福祉・ヘルスサイエンスの教育・研究をすすめる本学の存在は大きな意味があると思います。幸いにも、本学では、大学院もすべての専攻が完成年度を迎えました。本学の教育・研究にとって節目を迎えたともいえる開学11年目にあたり、川崎医療福祉学会は、求心的な役割を果たすために、一層充実することが期待されています。川崎医療福祉学会の充実を祈り、ご挨拶といたします。